

2021年1月1日 聖餐式説教

喜びの降誕日より1週間が経過しました。ユダヤの国では誕生後8日目に名前をつけることになっています。12月25日から8日目は1月1日になりますので、今日、イエスという名前がつけられたことになります。1月1日は元旦ですが、今日は元旦だから礼拝を行っているというよりも、イエスという名前がつけられたことを覚えての礼拝が主な内容となります。

さて、イエスという名前は、マリアのところへ天使の長ガブリエルが訪れ、受胎告知をした際に告げられた名前で、ヨセフとマリアが考えてつけた名前ではありませんでした。このようなことからイエスという名前は滅多にない特別中の特別な名前であると思われる方がよくおられますが、実は全く反対です。ユダヤの国で、最も多くつけられていた名前がイエスだったのです。

イエスという名前は、「神は救い」という意味になります。神様は私たちを救ってくださる、どのような時でも必ずその救いを与えてくださるというのが、イエスという名前の意味だったのです。このようなことからイエスという名前はユダヤの国でとても好んで用いられました。

ガブリエルはこのように、特別中の特別な名前をつけなさいと言ったのではなく、一番ありふれた、一番好まれている名前をつけなさいと言ったのです。しかしその名前は単にありふれているだけではなく、神様が深く人間を愛している、どのような時でも救いを与えてくださる、一人も外れることなく、神の国に迎え入れるために、御子をこの世にお遣わしになった、その真実を表すのがイエスという名前だったのです。まさにイエス・キリストの生涯、宣教活動、十字架の受難を現わすに重要な名前として、イエスという名前がつけられたのです。

ルカによる福音書の記述によれば、主イエスは8日目に名前をつけられ、40日目すなわち2月2日に、律法に従い両親に連れられて神殿に礼拝に行きました。ここでシメオン、アンナの二人との出会いがあったと記されています。その後、主イエスは両親と共にナザレでの生活が始まることとなります。

神様は私たちを救ってくださる、新年の最初にあたり、このことをしっかり覚えた信仰生活のスタートを切りたいものです。